

第 33 回 昆虫学格致セミナー

日時：2018 年 2 月 9 日（金）13 時 30 分～15 時 30 分

場所：京都大学農学部 1 階 E-103 号室

タイトル：好白蟻性昆虫の多様性

講演者：金尾太輔（京都大学大学院人間・環境学研究科）

生活史の少なくとも一部をシロアリ社会に依存する昆虫を好白蟻性昆虫と呼ぶ。好白蟻性昆虫はこれまでに 12 目 39 科もの分類群より知られており、多くの種において複眼や翅の退化などの形態の特殊化が見られる。好白蟻性昆虫の中でも、甲虫目ハネカクシ科ヒゲブトハネカクシ亜科における好白蟻性種の種多様性は群を抜いて高く、腹部の膜質部の肥大やカブトガニのように扁平な体形など、珍奇な形態をもつ好白蟻性種が数多く含まれる。また、好白蟻性ハネカクシは一般的に寄主シロアリと種特異的に関わり、寄主と共に種や形態が多様化したことが予想される。しかし、微小な体サイズや希少性に起因する採集の難しさにより、好白蟻性ハネカクシの進化に関する知見はほとんど得られていないばかりか、基礎的な種多様性調査も不十分な現状にある。

演者はこれまでに、ヒゲブトハネカクシ亜科における好白蟻性種の更なる種多様性と進化史の解明に向け、熱帯地域を中心とした野外調査を基盤に分類学的・系統学的研究を行ってきた。研究の進展により、これまでに未調査であったカンボジアから多数の新種が得られたほか、同種とされているものでも地域ごとに分化し複数の隠蔽種が含まれていることが明らかとなった。これまでに何度も調査を行っている場所であっても、いまだ調査の度に未記載種が得られている。亜科内の幅広い分類群を対象とした分子系統解析では、現在の亜科体系の混乱や好白蟻性種の複雑な進化史が明らかになりつつある。

本公演ではこれらの研究成果を紹介するとともに、野外調査や飼育によって観察された好白蟻性ハネカクシの基礎的な生態・行動や、ハネカクシ以外の多様な好白蟻性昆虫についても言及する。